

2013年3月21日

## スーパーサイエンスハイスクール指定校の研究成果を発表 “エバヤマザクラ” 組織培養による苗木増殖に成功 広島の名木を未来へ残す取り組み

広島大学附属高等学校（校長：古賀 一博 広島県広島市）は、文部科学省の「スーパーサイエンスハイスクール（SSH）※」に指定された2003年以来、さまざまな研究テーマに取り組んでいます。このたび生徒による研究チームが住友林業株式会社（社長：市川 晃 本社：東京都千代田区）の技術サポートのもと、広島市指定天然記念物であるエバヤマザクラの組織培養による増殖に成功しましたのでお知らせいたします。

本取り組みは、SSHの指定を受けた同校の研究課題として、希少木であるとともに、被爆を乗り越えたエバヤマザクラを後世へ引き継ぐことを目的として、高校生の研究チームが、2007年よりバイオテクノロジーの一手法である組織培養による増殖に着手しました。しかし、限られた設備による研究環境や基礎技術の習得に当初は苦戦を強いられました。

そこで、広島大学附属高等学校では、サクラ等の希少木に関して組織培養による増殖に成功実績のある住友林業筑波研究所に、2010年、研究指導を依頼し、専門の研究者による技術サポートや実習指導を受けてきました。その結果、培養液に添加する糖にマルトースやトレハロースを使うことが奏功し、2012年10月、生徒たちの研究チームはエバヤマザクラの組織培養に成功し、「第56回 広島県科学賞」においても、準特選に選ばれました。

また3月23日には、岡山市で開催中の「第54回 日本植物生理学会年会」の高校生研究発表会の場で、研究に取り組んできた生徒たちが研究発表を行う予定です。



エバヤマザクラ（広島市江波山気象館提供）

増殖した苗については、現在、住友林業筑波研究所の人工気象室で育成しており、地面に植栽できる大きさに成長した時点で、再び生徒たちの手に戻ることとなります。

※SSH：文部科学省により、将来の国際的な科学技術系人材を育成することを目的とし、理数系教育に重点を置いた研究開発を行う高校を指定、支援する制度で、2002年より実施されている。広島大学附属高等学校は、2003年に初めて指定され、2012年度から5年間にわたり再度指定を受けている。

以上

### 参考資料へ

《ニュースリリースに関するお問い合わせ先》  
住友林業株式会社  
コーポレート・コミュニケーション室 池田・飯塚  
TEL 03-3214-2270

